

# とんがらし通信

クリームソーダで

夏気分♪

No. 253

～主な内容～

- ・施設長コラム
- ・奥津さん還暦を祝う会
- ・活動紹介(すいか割り、奈美祭り)
- ・咲子さんの個展
- ・研修報告
- ・Close-up!
- ・職員コラム
- ほか

仙台つどいの家編集室  
発行責任者 山口 収  
発行日 2021年9月25日  
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16  
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752  
E-mail [sendai@tsudoinoie.or.jp](mailto:sendai@tsudoinoie.or.jp)  
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



## 『医療崩壊』と『命の選別』と『優生思想』の巻

新型コロナウイルスの猛威が止まりません。1年半ほど前に感染流行が始まったころ、人々はまだ楽観的な反応だったと記憶しています。『コロナなんて風邪と同じようなものだ』と言ったどその大統領は置いておいても、せいぜい季節性のインフルエンザのようなものと捉えていた人たちは多かったのではないのでしょうか。そうではなくとも、根本治療は確立していないながらもほぼ抑え込みに成功している『SARS』『MERS』と比較した報道が当時は多くあり、どこか楽観的な空気が流れていたのは事実だと思います。

各国の研究が進み、このウイルスの性質がだんだん見えてくるにしたがって、その空気も一変しました。これまでの人と人とのつながりは極力遮断する方向に進み、世界各国が鎖国状態になります。各地でロックダウン・都市封鎖が起こり、経済よりも感染拡大防止が優先されていきました。しかしその状況も長く続けているわけにもいかず、効果的なワクチンも特効薬も持たない段階で経済再開が叫ばれ、丸腰のまま『ウィズコロナ』が推奨されることになりました。その最たるものがオリンピック・パラリンピックの強硬開催だと思いますが、これは前号で話した気がするので、今回は言～わない！

当然ながらこの間断続的に感染は拡大を続けます。日本では度重なる緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置にもかかわらず、政府の言う『人流を抑える』ことはできず、感染者の爆発的な増加は医療・看護体制を圧迫し各地で医療崩壊が起こっています。…今あえて『にもかかわらず』と書きましたが、度重なっているから慣れっこになっちゃったのですね。国民の大多数が危機感を研ぎ澄まし国の方針についていこうとしていた初期の時点で、もう少し計画的・戦略的に進められていたら今の状況も随分違っていたかなあと思ったりもするのですが、もうひとつ。メディアでは1年以上前から『医療崩壊寸前！』を繰り返していますが、各地の状況を見るとすでに医療体制が崩壊しているところが数多く見られます。崩壊している中で、医療従事者・保健所のみなさんの120%の頑張りで何とか踏みとどまっている状況を『寸前』という表現で報道し続けることに常々疑問を感じます。

医療崩壊の進む中で現実的な問題として、『命の選別』をしている・せざるを得ない状況というものがあると思います。対応できる病床が埋まっていることから、入院はタイミングと運にゆだねられていたり。宿泊療養施設もいっぱい入れず自宅療養を余儀なくされたり。自宅療養中に症状が悪化しても受け入れ先の病院が見つからずたらいまわしにされたり。搬送先が見つからないことから、到着した救急隊が一昼夜つきっきりで処置にあたっていたり。。こんなことが、毎日毎日全国各地で起こっているのです。

東京でコロナ患者への往診をしている医師は、酸素吸入が必要な症状の重い自宅療養患者にせつせと酸素濃縮装置の配達を続けています。入院もできない・酸素吸入に必要な機器も十分に行き渡らないという状況を改善するために、回復したり入院先が決まった自宅療養患者のもとを訪れ、使用していた酸素濃縮装置を回収。消毒したのちに必要な自宅療養者に届けるというものです。ぎりぎりまで追い込まれた自宅療養患者の最後の砦ともいべきこの場所にも『命の選別』は迫っています。限られた酸素濃縮装置をどの患者に優先的に使用するかについて、医師は『災害医療のトリアージのような、厳しい意思決定をしていかなくてはいけない過酷な状況』と説明します。

さらに、日本精神科病院協会のアンケートによると、精神病院入院中の患者がコロナに感染した際に一般病院での受け入れ拒否が6割にも上るという驚きの結果が出ています。また、川崎市は障害者施設に向けて『陽性者が出た場合、延命処置・人工呼吸器装着希望の有無を必ず確認すること』という通知を出していたことも明らかになっています。

コロナ禍の今、先の見えない不安やそこはかとなない焦燥感が世の中を取り巻いています。不安や焦燥感は時に弱い立場の人に向かって刃を振ります。『命の選別』が再び『優生思想』に転化されることのないよう、その動向をしっかりと見ていく必要があります。(管理者 山口 収)

# 欣也さん還暦おめでとう



9月16日、今年度めでたく60歳を迎えられた奥津欣也さんの還暦を祝う会を開催しました。みんなで楽しむこと・盛り上げること・みんなを笑顔にすることが大好きな欣也さん。せっかくなので、欣也さんの意見を取り入れた欣也さんらしい会にしたい！ということできずつ打ち合わせを重ね一緒に会を作っていました。欣也さんとの打ち合わせでは、どんな会にしたい？会でやりたいことは？記念Tシャツ作ろうと思うんだけど、どんな色がいい？どんなデザインがいい？使う曲はどんなのがいい？などなど。なかなかイメージが沸かないようで、職員も伝えることと欣也さんの意見を引き出すことに四苦八苦。こうやって考えると、イベント1つにたくさん決めることがあるんだなあ。

還暦を祝う会当日。欣也さんの描いたイラスト付きの黄色いTシャツをみんなで着て迎えます。赤いちゃんちゃんこを着た欣也さんが「DA PANPUのUSA」をバックに大漁旗を振って入場してきました。

欣也さんの生い立ちから60年のあゆみをまとめたスライドショーや各地から寄せられた仲間からの祝いメッセージ動画、コンサートが大好きな欣也さんですが、今は新型コロナウイルスの影響で制限があり、直接演奏者を呼ぶことはできません。その代わりに、仙台つどいの家ではおなじみのArtWayDuoさんが素敵な演奏の映像を送ってくださり、タタルヘンリさんと一緒にバイオリンを弾く真似をして楽しんでいました。



最後に各グループから手作りの心のこもったプレゼント。寄せ書きは勿論、お手製の写真立てやマガジンラックなど素敵なプレゼントをたくさん貰いました。

まだまだ元気で活動的な欣也さん。仙台つどいの家に入ると「会いたかったよ〜。」と温かく迎えてくれる欣也さん。これからもみんなの輪の中でずっと笑顔でいてくださいね！

(記：安藤)

☆還暦を祝う会はどうでしたか

たくさんプレゼントありがとうございます。うれしいです。(欣也)

☆つどいで一番の思い出は何ですか？

福地慎治さんと成田空港や新幹線で新潟に行ったこと。(欣也)





# 奈美まつり

## 「疫病退散！ナミビエパレード」

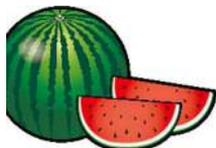


けやきグループのなかで毎年恒例になった「奈美まつり」。お祭りが大好きな奈美さんが主催する、ほかのグループを巻き込んだお祭りイベントです。お祭りの準備の段階から奈美さんの表情はニコニコです。コロナウイルスの影響で暗くなりがちな昨今……。気持ちだけはコロナに負けず、サンバを踊ってみんなで盛り上げよう！！と今回のテーマは「疫病退散！ナミビエパレード！！！」に決定しました。

最初は、マツケンサンバのリズムにあわせて奈美さんが「アマビエ」の手作り衣装を着てパレード。周りのみんなに奈美さんの顔入りうちわをふって盛り上げてもらいました。次に、奈美さんからのメッセージパネルをみんなで宝探しして完成させます。やや難しくヒントカードを用意したはずなのですが一番早かったさんしょグループは10分以内で目標の3ピースを見つけました。パネルをみんなが集めたピースで完成し、「なみまつり」のあいうえお作文で作ったコロナ対策メッセージをみんな読んで午前中はおしまいになりました。

午後からはお楽しみの景品当たる抽選会とナミビエ様から疫病退散の意味を込めて各グループをお祓いしてまわりました。抽選会の1等はサーティーワンアイスクリームの商品券。めいぷるグループに当たると会場はかなり盛り上がっていました。最後にナミビエの衣装を着た奈美さんと一緒にコロナの収束を願って各グループと記念写真をパシャリ。その日は奈美さんの笑顔だけでなく、他グループメンバーの笑顔も忘れられない一日になりました。コロナウイルスの収束はなかなか難しいですが、こんなときだからこそみんなで盛り上げられる活動ができれば嬉しいなと感じました。（記：吉田）

## スイカ割りをしました！



コロナウイルスの影響により、バーベキューや夏祭りは行えませんでした。スイカ割りをおこないました！

職員が前日に作成した黄金のスイカ割り棒「通称エクスカリバー」やプラスチックのバットなど、様々な棒で巨大なスイカを叩きました。

岩佐美奈さんは職員が作ったエクスカリバーを最後まで離さずもっており、美奈さんの順番が終わった後もスイカの近くで興味津々。早川奈津子さんは調理活動で使っていたしゃもじをもって参戦！！みなさんも思い思いの武器？を使っています。

最後は櫻井賢治さんが車いすから職員と一緒に立ち上がり、ハンマーでスイカにとどめをさしました！

割れたてのスイカをみんな夢中で味見しています。特に和也さんや奈美さんは甘いスイカがお気に入りだったようで、夢中で舌鼓を打っています！

夏の風物詩スイカ割りをみんなで楽しむことができました！

（記 渡辺）



## 佐藤咲子さん個展 Sakiko の手づくりライフ

### 開催への道のり・・・

7月26日～8月6日という2週間の日程で佐藤咲子さんの個展が開催されました。これまでも「個展を開きたい。」という希望があったものの、すぐに「やりません。」となり実現に至っていませんでした。しかし今回、愛子さんが個展を開催したこともあって刺激を受けたようで開催に至りました。咲子さんと個展の概要について話を進めると、開催期間は2週間で1週間ごとに作品を入れ替えたい、とのことでした。その数、合計で14点！今回展示した「ペーパーバスケットアリー」は、新聞紙を棒状にし編み込んでいって作成するため、完成するまでにとても労力がかかります。実際、開催2週間前になっても半分ほどしか完成しておらず、職員は内心とても焦りました。咲子さん自身も焦りが募り、暇を見つけてはアートの部屋にこもり、黙々と作業・・・そして、咲子さんの驚異的な集中力で開催に間に合いました。観に来てくれた方に製作過程を知ってほしい、という咲子さんの思いもあり、製作過程を写真におさめた冊子も同時に展示しました。開催期間中はめいぷるショップに来店いただいた方の目を楽しませ、咲子さんが直接説明する場面も。やっと願いが叶った個展の開催。開催までの道のりは想像以上に大変だったかもしれません。しかし無事に終わった達成感のある表情を咲子さんは見せてくれました☆



(記：小川)

## 陽平さんとコロナワクチン

くるみグループの橋本陽平さんは注射が苦手です。

感覚過敏があるため急に触られてしまうとパニックになってしまうことがあり、健康診断の採血が出来ない年もありました。しかし、毎年行っていく中で時間はかかるものの落ち着ける場所で気持ちの折り合いをつけて、次第に採血出来る年が増えていきました。

そんな中、陽平さんもコロナワクチンを接種してきました。病院も混雑していてワクチン接種まで一時間かかり、見通しが見えない中不安な面持ちでした。お茶を買って飲んだり、お手洗いにいき自分で気持ちを落ち着かせていました。そんなこんなでいざ本番。陽平さんの中で注射を打つ心構えは出来ていましたが、服をめくって肩に打つのは想定外だったようで、拒否してしまいます。しかし、本人の中で「打たなければいけない」という気持ちがあったようで、お手洗いで気持ちを切り替えて自ら診察室に入り接種できました。

今回ワクチンを接種出来たのは「毎年の積み重ね」が大きかったと思います。

ワクチン接種の前、正直支援員は身構えていました。しかしそれを横目に陽平さんは自らの力で気持ちを整理し、毎年の積み重ねを生かして一時間待合室で待ってワクチンを接種することが出来たのです。

陽平さん、コロナが落ち着いたら大好きなラーメンを思う存分食べに行きましょうね！！

(記：松原)



Close-up!

# 大山ゆかりさん



めいぶるの大山ゆかりさんはとっても面倒見がいいのです。人のために何かしてあげたいという気持ちがいっぱいあって、困っている人や寂しそうにしている人をみると声をかけてあげたり、そっと手を引っ張ってくれたり…。

仕事するときも「助かりました!」の言葉に「何、助かったの!!」ととてもご満悦になります。こっちまでうれしく笑顔になってしまいます。

それからもうひとつゆかりさんの素敵なおとこ。とってもおしゃれなのです。いつもかわいいTシャツや腕にはたくさんブレスレットをしています。このブレスレットは以前、めいぶるの活動で作りはじめハマってしまったようです。

今では10本以上作っています。おしゃれに敏感なのは、いつも素敵なお母さまからいっぱい刺激を受けているのでは…と思います。これからもめいぶるのファッションリーダー間違いなしです。  
(記:西村)

## 職員コラム

今回は…けやきグループの

# 菊地明子さん

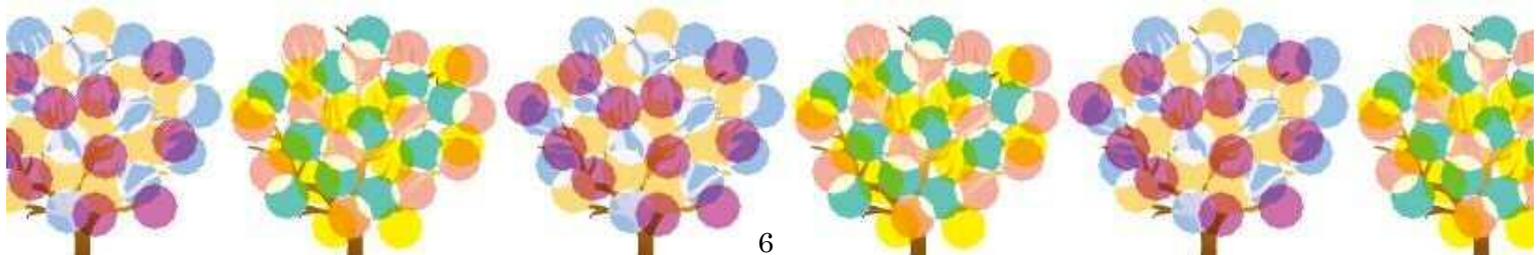
はじめまして、今年の6月からけやきグループの支援員になりました菊地明子です。毎日みなさんと楽しく過ごしております。

今回はコロナ禍で増えたお家時間についてお話ししたいと思います。我が家は子供が3人いるのですが、学校が休みの前日、金曜日の夜は映画の日と決めています。この日だけは、夜更かし・お菓子・ジュースOKの特別な日となり、子供達は毎週ワクワクしています。

毎回、何を観るか決めるのも楽しみの一つになっています(^\_^)その他にも休日には家の中での遊び、ゲームや工作などゆっくり過ごす時間にもやっと…やっと慣れてきた今日この頃です。(本当は外でおもいきり体を動かしたいんですけどね(\*\_\*))

でも、まだまだ我慢の日々は続きそうですね。。。。。。。

何かおすすめ映画などありましたら教えてください。よろしくお願いします。



7月28日、法人の内部研修「相談支援事業について」が開催されました。相談支援事業とは、障害のある方を対象に日常の困りごとや福祉サービス等についての相談を専門の職員（相談支援専門員）が受け付け、必要な援助を行う事業を指します。また福祉サービスの利用者それぞれに相談支援専門員が利用計画（サービス等利用計画）を作成しているため、仙台つどいの家でも法人内外の事業所の相談支援専門員によって、定期的に訪問や電話での聞き取りを通じて利用者の方々の日々の様子の確認が行われています。

講義の中では仙台市や各区での相談支援事業の取り組みの状況、また職員にとっても日々の支援と密接に関わっているサービス等利用計画やモニタリング状況等々、幅広い話を聞くことができました。その中で、仙台市内の指定特定相談支援事業所の数は59か所(令和3年2月時点)に上るがその数には増減があり、相談などの需要は多いものの相談支援事業所自体の継続した運営が難しい現状にある、といった背景も聞かれました。

また利用者へのそうした個別の援助の他にも、自立支援協議会等への参加を通じて、地域の他の相談支援員や様々な職種と協力し、地域の課題を探し、利用できる社会資源を新たに作り出す…といった地域全体への働きかけも役割として求められるという話があり、相談支援専門員という職種の重要性を改めて感じられた研修となりました。(記：寺島)



## 社福) つどいの家 採用チーム活動 インターンシップについて

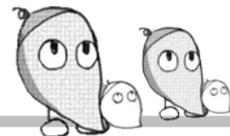
インターンシップとは、学生が興味のある企業などで実際に働いたり、訪問する職業体験のことです。実際の業務や働く環境の体験を通じて、業務内容や働くことの理解を深めることを目的としています。

つどいの家でも数年前からインターンシップの積極的な受け入れを始め、今年度はこれまでに約20名弱の学生の受け入れを行いました。受け入れにあたっては以下のような事に配慮しています。

- ①「しょうがい」の理解を深めるきっかけを与えること。
- ②今後の福祉人材につながるような体験や印象を残すこと。
- ③参加学生の今後の就職活動が有利に働くような情報を提供すること。

いま、採用市場は圧倒的な学生売り手市場ですが、度重なる就職活動ルールの見直しや実質内定の早期化などを問題の背景として2022年卒以降の学生は政府主導ルールの導入でふたたび市場が転換期を迎えるといわれています。一見、売り手市場は良いことのように聞こえますが、学生にとってはエントリーする会社数が減り、新しい職業や自分に合う業界の発見につながる機会が減ったという結果も生んでいます。加えてこのコロナ禍で翻弄され続ける学生さん達の立場になれば、少しでも安心できる職業選択になってほしいと願いながら日々、インターンシップの取り組みや採用活動にあたっています。

(堀内)



## スケジュール schedule

### 令和3年 10月

- 1日 (金) 法人防災訓練
- 3日 (日) 職員採用試験
- 4日 (月) ケース会議 13:30 降所
- 7日 (木) 音楽療法
- 18日 (月) 施設懇談会
- 20日 (水) ケース会議 13:30 降所
- 25日 (月) 職員会議
- 28日 (木) 音楽療法



### 令和3年 11月

- 3日 (水) 休日開館日 (くるみ)
- 11日 (木) 音楽療法
- 17日 (水) 施設懇談会
- 18日 (木) ケース会議 13:30 降所
- 19日 (金) 成人を祝う会
- 23日 (火) 休日開館日 (めいぷる)
- 24日 (水) 職員会議
- 25日 (木) 音楽療法

## ご協力ありがとうございます

ボランティアとして協力して頂いた皆様

(7月16日～9月14日まで)

吉田さん



## 見学・来訪者など

音楽療法向井田先生、尚絅学院大 佐藤さん 田口さん、夏のボランティア体験 佐々木さん 大竹さん 本田さん 庄子さん 堀さん 道淵さん、宮城野区社協、各区分調査員の方、後援会針持会長・高橋副会長、ハンズ仙台、鶴谷特別支援学校の先生、菊地さん、小松島支援学校の先生・生徒・保護者、吉田屋、ヤクルト、今庄青果、アグリ仙台、マルイ、マルキ水産、サトー商会、ダスキン、ほまれフーズ、ホシザキ東北、日本テクノ、東北食材、JCI 瀬戸さん、タカラ米穀、松尾けんこうクリニック、ハート総合企画、三菱HCキャピタル(株)

法人職員：佐藤(吉)、山口(剛)、榊原、加藤、嶋田ほか多数

(以上、ご芳名順不同)

## 缶回収 7・8月の納品額

合計 3,840 円でした。

ご協力ありがとうございました。

## 編集後記

最近、ベランダに出て夜風にあたるのがルーティンになっています。この時期はほのかに金木犀の香りもあり、秋の訪れを感じます。また、親戚から梨をいただき毎日味わっています。今年は、天候不順の影響で野菜や果物の価格が高騰しているとか・・・

ステイホームが定番になりつつある今日。季節を肌で感じていくのも悪くないと感じています(￣▽￣)  
(記：小川)